

津消防タイムズ

第50号

発行 津市消防本部
〒514-1101
津市久居明神町
2276

編集 消防総務課
企画調整室
TEL 059-254-0353
FAX 059-256-7755

火災の問い合わせ
☎224-1881

三重県救急医療情報センター
コールセンター
☎256-1199

津市救急・健康相談
ダイヤル24
☎0120-840-299



↑国道23号を凱旋パレードする吉田沙保里選手と消防音楽隊



↑沿道に手を振る吉田沙保里選手

八月二十八日、ロンドンオリンピック女子レスリング五十五キロ級で金メダルを獲得し、オリンピック三連覇という偉業を成し遂げた吉田沙保里選手の凱旋パレードが、市内の国道二十三号で行われました。沿道には、吉田選手の姿を一目見ようと約五万人の市民やファンが詰めかけ、大きな声援が送られていました。

**消防音楽隊
吉田沙保里選手
凱旋パレードで演奏**
(消防総務課)



↑花束を手にロビーに案内される吉田沙保里選手

パレードの後、市役所で吉田選手のユニフォームなどの展示物の除幕式が行われましたが、その際にも大勢のファンが待つ正面玄関で出迎える演奏を行いました。(岡大介) 花



↑吉田沙保里選手を先導する形でパレードする三重高校バトントワリング部と消防音楽隊

このパレードには、消防音楽隊や三重高校バトントワリング部も参加し、演奏で吉田選手の偉業達成を称え、防炎・防の広報を実施しました。

救急救命士による処置の範囲が広がる実証研究が行われます

10月1日から、救急救命士の処置による救急搬送患者の救命率を向上させるため、厚生労働省と総務省消防庁の助言を受け、厚生労働科学研究班が中心となり、「血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与」、「重症喘息患者に対する吸入β刺激薬の使用」、「心肺停止前の静脈路確保と輸液の実施」の3項目を追加し、その効果などを検証します。

津市での実証試験は、県内で唯一選考され、消防本部と津・久居地域メディカルコントロール協議会が共同で、平成25年1月31日まで実施する予定です。

実証研究の3項目を行う際には、20歳以上の傷病者を対象として、本人や家族の同意を得てから、医師の指示を受けながら行います。

今回の実証研究により、その効果や安全性が確認され、救急救命士の処置範囲拡大が期待されます。

今回の実証研究に伴う救急救命士の処置範囲拡大に、御理解と御協力をお願いします。

【実証研究に伴い拡大される処置】

- ・低血糖発作：血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与
- ・重症喘息：重症喘息患者に対する吸入β刺激薬の使用
- ・ショック：心肺停止前の静脈路確保と輸液の実施

【実施予定期間（介入）】平成24年10月1日～平成25年1月31日

※これらの処置を行う際には、20歳以上の傷病者を対象に、本人または家族などの同意を得てから、電話などで医師の指示を受けながら行います。

お問い合わせ先 救急対策室 TEL059-254-1603



↑ 事前研修受講中の救急救命士

処置範囲拡大の実証研究に向けた事前研修の実施 (中消防署)

消防本部では、救急救命士の処置範囲拡大の実証研究の開始に向け、6月から薬剤投与の認定を受けている救急救命士三十二人を対象に、消防本部の研修室などで事前研修を行っており、中消防署の救急救命士も参加しています。

この事前研修は、津・久居メディカルコントロール協議会などに所属の医師を講師とし、講義、実技などがあり、合計で二十時間を超えるカリキュラムが組まれています。十月一日からの、実施（介入）に向け万全の態勢を整えます。

(松田憲晃)



↑ 指導会で活躍する隊員

消防救助技術 東海地区指導会に出場 (西分署)

七月十一日、鈴鹿市石薬師町の三重県消防学校で、第四十一回消防技術東海地区指導会が開催されました。津市消防本部からは、障害突破と引揚救助の二種目に出場しました。障害突破は、コース上に設置された五つの障害を突破して救助現場にいち早く到着しようとするものです。また、引揚救助は、低所にいる要救助者を七メートルの高さまで救出するもので、いずれの種目も五人一組で、安全性、確実性、迅速性を競います。指導会に出場した隊員たちは、今回の経験と鍛えた身体、錬磨した救助技術を、今後の現場活動に活かしていきます。

(川口展人)

消防団安濃方面団**夏期・水防訓練を実施****(安濃分遣所)**

七月八日、消防団安濃方面団と中消防署安濃分遣所合同の夏期・水防訓練を実施し、約百二十人が参加しました。

今回の訓練は、消防団員の技術向上を目的に実施したもので、土のう作成、積み土のう工法訓練、機械器具点検、ポンプ操法、放水などの基本的な訓練を行いました。

額に汗する消防団員から「台風シーズンを前に水防技術を確保できた」と自信の声が聞かれました。
(宮下久志)



↑放水訓練をする消防団員

解体現場で**ブリーチング訓練を実施****(北消防署)**

四月二十五日、大里窪田町の三重病院で、解体中の旧多目的棟においてブリーチング訓練を実施しました。

ブリーチングとは、破る・破壊するという意味で、地震などで倒壊したコンクリート建物から、要救助者を救出するため、壁や床に開口部を開ける工法をいい、今回は、このブリーチングを中心に実施しました。隊員は、削岩機などの破壊器具を駆使して、安全を確保しつつ大胆かつ慎重にコンクリートの壁を三角形に開ける工法に取り組みました。



↑ドリルでコンクリート壁に穴をあける隊員

昨年発生した東日本大震災においても、倒壊建物からの救助事例が報告されています。また、南海トラフを震源域とする巨大地震発生も危惧されており、今後とも訓練を積み重ね、技術力を高めていきます。



↑設定した開口部の様子

なお、今回のような実際の建物を使用した訓練は、大変貴重なものであり、御協力いただいた国立病院機構三重病院の関係者の方々に、感謝申し上げます。
(伊東賢一)

**ドクターヘリと連携した****水難救助訓練を実施****(河芸分署)**

六月二十五日、河芸町東千里のマリナー河芸で、水難救助訓練を実施しました。

今回の訓練は、水難事故が多発するシーズンを控え、水難救助に対する体制の確認と、今年二月から運用を開始した三重県ドクターヘリとの連携強化を目的に実施しました。

訓練後、黒川北消防署副署長による、溺者救助法などの研修も実施しました。
(田村和也)



↑医師と協力し傷病者をドクターヘリに收容する救急隊員

中国人実習生**心肺蘇生法を学ぶ****(芸濃分署)**

七月三日、芸濃庁舎で就業実習のため来日中の中国人実習生二十四人に対し、滞在中、安全に安心して暮らせるための教養の一環として、心肺蘇生法の訓練を実施しました。

実習生からは、「中国では、このような救急訓練を受けたことがありません。初めての体験です」との声も聞かれました。最初は慣れない手つきで、戸惑っていましたが、熱心に心肺蘇生法を学んでいました。

この他にも、地震・風水害の話、消火器を使つての初期消火訓練も実施しました。

(奥山光也)

↑心臓マッサージを行う
中国人実習生

応急手当普及員講習実施**(久居消防署)**

七月二十四日から二十六日までの三日間、消防本部で市内の小学校養護教諭を対象に応急手当普及員講習を実施しました。応急手当普及員を取得すると、普通救命講習で心肺蘇生法などの指導ができます。

このことから、各学校で独自に普通救命講習を開催でき、各学校の実状に合わせた救命講習会が可能となり、救命率の向上が期待されます。

受講した先生から「今後は、指導者として消防職員と協力して、応急手当の普及・指導に努めたい」との声が聞かれました。

(小黒俊明)

↑心肺蘇生法の実技の指導を受ける先生たち

危険物安全週間に伴う**危険物施設での訓練の実施****(南分署)**

六月五日、雲出長常町の豊国製油株式会社三重工場において、消防訓練が実施され、従業員二十五人と消防職員二十人が参加しました。



↑泡放水する消防隊員

訓練は、地震が発生し屋外タンク貯蔵所の配管が破損し、油が漏洩し出火したとの想定で行われました。最初に、自衛消防隊による通報・初期消火訓練を行い、その後、到着した久居消防署南分署の消防隊が消火活動を実施しました。南分署では、危険物安全週間の期間中に管内の四か所の危険物施設で訓練を実施するとともに、七か所を少量危険物施設で立入検査を実施しました。

(前川寿宏)**美里中学校全校生徒が****心肺蘇生法講習を受講****(美里分署)**

六月十三日、美里中学校の一年から三年生までの全校生徒が、心肺蘇生法講習を受講しました。

これは、夏本番を前に、水による事故や熱中症に対する救急事案に対処するために開催されました。

講習中は、真剣な眼差しで救急救命士の講義を聞くとともに、実技でも心肺蘇生法やAED(自動体外式除細動器)の取り扱いなどに一生懸命取り組んでいました。講習後、参加した生徒は、「もし、友達や家族が倒れたら、積極的に心肺蘇生をやりたいと思います」と述べていました。

(鯖戸利宏)

↑一生懸命に心臓マッサージを行う生徒

香良洲地域

水防工法訓練を実施 (香良洲分遣所)

六月三日、香良洲海岸において、自主防災協議会香良洲支部、消防団香良洲方面団、香良洲総合支所、久居消防署香良洲分遣所合わせて、約二百人が参加して水防工法訓練を実施しました。



↑土のうを積み込む参加者たち

訓練は、ゲリラ豪雨により、堤防の一部が決壊する恐れがあるとの想定で行われ、香良洲分遣所職員指導のもと、自主防災会は改良積み土のう工法、香良洲方面団は釜段工法をそれぞれ実施しました。

(川邊雅裕)



三重県消防操法大会出場

(白山消防署)

七月二十一日、三重県消防学校において、平成二十四年度三重県消防操法大会が開催され、津市消防団からは、白山方面団、美里方面団の二チームが小型ポンプ操法の部に出場しました。

出場団員、指導者ともに、二月から半年間にわたり、休日もいとわず訓練に参加し大会に備えました。当日はあいにくの荒天となりましたが、団員らは、雨を吹き飛ばす気迫で操法に臨み、訓練の成果を存分に発揮しました。

(天野博)



↑放水する方面団員
白山方面団員



↑放水する美里方面団員

ゴムボート

取り扱い訓練を実施 (二志分署)

七月二十四日、三十一日の二日間、波瀬川において新たに配備されたゴムボートの組み立てと漕艇訓練を実施しました。今回配備されたゴムボートは、六人乗りの手漕ぎのもので、大雨などで冠水した地域に取り残された要救助者の救出や、水難救助の際に活用するものです。



↑オールでゴムボートを漕艇する隊員

訓練に参加した隊員は、「さらに訓練を継続し習熟したい」と意気込んでいました。

(大原康也)

美杉地域防災訓練を実施

(美杉分署)

九月一日、美杉中学校において、地元住民、消防・防災関係機関合わせて、約二百人が参加して、平成二十四年美杉地域防災訓練が実施されました。

訓練は、大規模地震が発生し、幹線道路が土砂崩れなどで通行できなくなり、美杉地域が孤立状態になるとともに、多くの家屋が倒壊し多数の負傷者や火災が発生しているという想定で行われ、自主防災協議会美杉支部による避難訓練、消防団による消火訓練や土砂災害現場での救出訓練、三重県ドクターヘリによる負傷者搬送訓練、防災ヘリによる救援物資投下訓練などの実践的な訓練が行われました。

(水谷一人)



↑ドクターヘリに負傷者を引き継ぐ隊員

可搬型衛星通信装置**取り扱い訓練を実施**

(通信指令課)

五月二十八日、津市消防本部、松阪地区広域消防組合消防本部、三重県警察本部合同の水難救助訓練に合わせ、雲出川河川敷において、可搬型衛星通信装置の取り扱い訓練を実施しました。

この装置は、緊急消防援助隊の派遣隊用として、三重県から譲渡を受けたものです。

大規模な地震災害が発生した際には、被災地と消防本部などの通信を確保することが重要です。今回の訓練では、支援車を活用し、津市消防本部の指令センターと通信訓練を行いました。(松本博行)



↑支援車の後方に設置した可搬型衛星通信装置

防災ずきん作りで**自助の大切さを呼び掛け**

(消防総務課)

消防団芸濃方面団ささゆり分団は、「明るく、活発に、そして地道に」を合言葉に、女性パワーで地域の防災活動に取り組んでいます。今回は、その取り組みの一つである防災ずきん作り講習会を紹介します。

防災ずきんは、ショッピングセンターなどの防災グッズ売り場で販売されていますが、ささゆり分団が講習会で作る防災ずきんは、ひと味違います。

バスタオルを袋状にし、その中に避難所で必要となる物や衣類などを詰め込んで作るもので、簡単に作成できます。



↑男子中学生に指導する女性団員

防災ずきん講習会は、数年前から、地域の自治会や中学校などで開催しており、最近では、新聞でも取り上げられたことから、市外からの受講者も増えていきます。

受講した方々からは、「楽しく作れ、実用的だ」と好評を得ています。

ささゆり分団は、松谷分団長以下十人の女性団員で構成されており、今後も「自分の命は自分で守る。という自助の大切さを呼び掛けていきます」と抱負を語ってくれました。(横山博)



↑受講した中学生との記念撮影

平成24年秋季全国火災予防運動

11月9日(金)から11月15日(木)まで「平成24年秋季全国火災予防運動」が実施されます。

☆全国統一標語 『消すまでは 出ない行かない 離れない』

☆重点目標

- 1 住宅防火対策の推進
- 2 放火火災・連続放火火災防止対策の推進
- 3 特定防火対象物等における防火安全対策の徹底
- 4 製品火災の発生防止に向けた取組の推進



平成二十四年上半年期の

火災・救急・救助概況

【火災】上半期に市内で発生した建物火災は二十六件で、そのうち住宅火災は十三件でした。

火災の原因は、「放火・放火の疑い」が最も多く、特に深夜や未明に建物の周囲や駐車中の車などが狙われます。対策としては、家の周りに外灯を付けるなど明るくし、燃えやすい物を置かないなどの「放火されない町づくり」が必要です。

区分	平成24年上半年期	平成23年上半年期	増減
火災件数合計	56	73	▲17
建物火災	26	37	▲11
うち住宅火災	13	24	▲11
林野火災	2	11	▲9
車両火災	10	9	1
船舶火災	0	0	0
その他の火災	18	16	2
死者(人)	1	3	▲2
うち住宅火災	0	1	▲1
負傷者(人)	4	7	▲3

▲は減を示す

区分	平成24年上半年期	平成23年上半年期	増減	
出動件数	6,506	6,184	322	
搬送件数	5,851	5,688	163	
搬送人員(人)	5,918	5,783	135	
主な事故種別 (出動件数)	急病	4,004	3,842	162
	一般負傷	1,019	952	67
	交通事故	616	615	1

【救急】上半期に市内で発生した救急出動件数は六千五百六件で、急病が四千四件と全体の約六十二%でした。

また、救急出動全体の約五十四%が軽症患者でした。

軽いけがや病氣(擦り傷、歯痛、風邪など)の場合などは、自家用車やタクシーなどでかかり付けの医療機関で受診してください。

救急車の適正利用に御協力をお願いします。

【救助】上半期に市内で発生した救助出動件数は四十六件で、交通事故が二十七件と全体の約五十九%でした。

出動件数四十六件のうち現場で活動した件数は、三十三件で、三十八人を救助しました。活動件数に含まれていない十三件については、救助隊が到着するまでに付近住民により救出されたものなどです。

区分	平成24年上半年期	平成23年上半年期	増減	
出動件数	46	44	2	
活動件数	33	27	6	
救助人員(人)	38	32	6	
主な事故種別 (出動件数)	交通事故	27	27	0
	火災	0	3	▲3
	水難事故	3	4	▲1
	建物等による事故	3	3	0

▲は減を示す

★ 主な行事予定 ★

- ◆ 十月二十七日(土)
消防・防災フェスティバル
(津リージョンプラザお城ホールほか)
- ◆ 十一月四日(日)
津市総合防災訓練
(お城西公園ほか)
- ◆ 十二月三日(月)
住宅防火・防災推進シンポジウム
(白山総合文化センターしらさぎホール)
- ◆ 一月十三日(日)
津市消防出初式
(津リージョンプラザお城ホールほか)

編集後記

澄みきった空、いよいよ秋本番です。これからの休日には、デジタルカメラ片手に素晴らしい秋を撮り出かけようと思っています。最近では、スマートフォンで撮影している人を多く見かけます。スマートフォンも使ってみると大変便利なのでしょうが、折り畳み式の携帯電話を使っている私は、デジタルカメラ派です。スマートフォンのカメラ機能よりもデジタルカメラの方が撮影に関しては優れていると信じていることもその一因です。専門だからこそその高性能と信頼性。このことは、消防を専門とする私たちにも求められていると思っています。しかし、時代はスマートフォンのようなマルチさが求められている部分も多々あります。この秋は、消防における専門性を大事にしつつ、他の分野にもチャレンジしていきたいと思っています。皆さんも、消防・防災に関することにチャレンジしてみたいかがででしょうか。(岡大介)

消防・防災フェスティバル

開催日:平成24年10月27日(土)

開催時間及び場所:津リージョンプラザお城ホール 午前10時00分～午前11時00分
お城西公園 午前10時30分～午後0時30分

入場無料(津リージョンプラザお城ホールは、収容人員に制限があります。)

【内容】

津リージョンプラザお城ホール

《開場:午前9時30分 開演:午前10時》

- ・消防団協力事業所表示証交付式
- ・消防音楽隊演奏
(予定曲目:ドラえもん、パイレーツ・オブ・カリビアン、演歌メドレーほか)
- ・女性消防団員による寸劇

お城西公園

《開場:午前10時30分 閉場:午後0時30分》

- ・運転席乗車体験「水槽付消防ポンプ車・救急車」
- ・防火服着体験(大人・子ども用)
- ・地震体験 ・煙体験 ・119番通報体験
- ・心肺蘇生法・AED取扱体験
- ・車両展示「はしご車・消防団多機能車・支援車」
- ・消防職員採用相談

※天候などにより、中止または内容を変更する場合があります。

公共交通機関での来場に御協力をお願いします。

主催:津市・津市消防本部 協力:津市消防団 後援:津市防火協会

お問い合わせ先:消防本部企画調整室 TEL254-0353



☆シロモ子くん来場
☆スタンフラリー開催
☆電動消防車
救急車にも乗れます。



住宅防火・防災推進シンポジウム in 三重

開催日時:平成24年12月3日(月)

午後1時30分～午後3時40分

開催場所:白山総合文化センター

しらさぎホール

ダニエル・カールと
一緒に考えよう!
地域の住宅防火防災対策

参加自由・入場無料(白山総合文化センターしらさぎホールは、
収容人員に制限があります。)

ご来場者にもれなく
「いざという時の非常持出し袋」プレゼント!

プログラム

- 午後0時30分 受付開始
- 午後1時00分 開場
- 午後1時30分 開会・あいさつ
- 午後1時35分 基調講演(東京理科大学総合研究機構教授 菅原 進一)
- 午後1時55分 ダニエル・カールの防災がんばっぺ
- 午後2時40分 パネルディスカッション
- 午後3時40分 閉会

主催:総務省消防庁

共催:津市・津市消防本部・津市消防団

後援:三重県・津市防火協会

お問い合わせ先:消防本部予防課 TEL254-0354

一緒に地域の
住宅防火防災
を考えっぺ!

